

情報通信技術により社会の課題解決に貢献することで、 新たな発想や価値を創造していきます。

CSRは「価値創造」活動

NTT西日本グループでは、CSRを企業価値を高めていく「価値創造」活動と捉え、「社会的価値」「経済的価値」「人間的価値」の3つの価値の増大に取り組んでいます。

これは、法令・社会的規範の遵守や有用なサービスの提供といった、いわば義務的な発想である従来の範疇を超えた能動的な発想です。ブロードバンドサービスの提供あるいは自治体・地域社会と連携したソリューションなど当社の強みである情報通信サービスにおける技術・資源・ノウハウを活かすことで、社会に貢献するという事です。市民社会の成熟とともに生活者の意識も変化しつつあり、企業を全面

的に信頼するのではなく、信頼できる企業を選別するという流れが起きています。短期的な視点だけでなく、長期的な視点とのバランスの中でステークホルダーからの信頼を獲得していくことが、今後の当社の持続的発展につながるものと考えています。

NGNの可能性を 皆様とともに広げていきたい

2007年のトライアル期間を経て、2008年からはいよいよ次世代ネットワーク「NGN」の商用サービスが開始されました。現在日本が抱え

るさまざまな課題を解決するために、NGNがお役に立てる部分はたくさんあると確信しています。

NGNの特徴の中で特に重要なのは、品質保証とセキュリティです。情報通信の技術やサービスがめざましい速度で進化・普及することにとめない、セキュリティへの不安など、ネットワークの影の部分が発生しています。NGNではこうした部分が解消されるため、自宅にいながら医師に診察してもらう遠隔医療やインターネット上のオンライン取引、学校教育における遠隔講義なども安心して行っていただけるようになります。また、ビジネス分野では、ソフトウェアのシェアなどもネットワーク上で安心して行えることから、中小企業や個人の方にもビジネス上のチャンスが広がります。このほか、自宅勤務など柔軟なワークスタイルの普及にも貢献できることから、従来の生活スタイルや価値観、経済活動を大きく変える可能性があります。

もちろん、こういった未来は、かかわる人がどのような暮らし方をしたいのかを思い描くことで、初めて情報通信という道具が活かされると思います。その実現には、異業種・他業界の皆様力が欠かせません。NGNは「オープン」と「コラボレーション」がキーワードですが、こうしたステークホルダーとの連携の中から新たな発想や革新的な価値が生まれると信じています。

環境対策から環境経営へ ICTを通じた環境負荷の低減

NTT西日本グループは、これまでの環境保護活動に経営を融合した環境経営として、資源の有効活用、地球温暖化防止への取り組みをさらに推進しています。同時に2007年に「Save Resource Program」を策定し、重要なテーマを4つに絞り、取り組んでいくこととしました。

情報通信の利用が進むと同時にお客様宅内での情報機器が増え、そして買い替え時には適切に処分する必要が出てきます。NTT西日本グループはこれらの機器にも責任を持ってリユース・リサイクルをしていくこととしました。また、ICTを活かした環境ソリューションの販売を推進することで、2010年までに0.3万トン-CO₂の削減効果を上げることをめざしています。同時に、自社内でもテレビ会議などにより、移動にかかわるCO₂を2010年までに0.2万トン-CO₂削減します。このように、情報通信を活用し環境負荷を低減できる一方、通信設備によるエネルギー量が増加しているのも事実です。このことを真摯に受け止め、ネットワーク通信機器をさらに省電力化・効率向上することによって、2010年までに5.1万トン-CO₂削減する計画です。

プロフェッショナルを育成し 豊かな未来社会の創造につなげます

通信業界の技術進歩は非常に速いスピードで、日々新しい技術の習得と継承の繰り返しは必須です。これに対応する高度IP技術者の育成は、社会のためにも不可欠と考え、2010年度末までに2,400名を育成する予定です。また、ネットワークのプロフェッショナルだけでなく、販売のプロフェッショナルというように、全員がそれぞれの仕事のプロフェッショナルにならなくてはなりません。私は、「いつも、あなたのそばにいる。」というフレーズを使っているのですが、常にお客様に寄り添って問題を解決できる人を育てたい。サービスが選ばれたということは、その仕事をしている自分が選ばれたということ意識してほしいと思っています。

また、すべての人材が能力を最大限に発揮できる環境整備の一貫として、「いきいき共生推進室」を設置しました。多様なサービスを提供するためには、多様な価値を理解することが必要ですが、女性の感性やチャレンジの価値観も尊重していく考えです。理想的には、特別な組織を作らなくてもダイバーシティ推進ができればいいのですが、社内の意識変革を加速するためにも、今回はこうした仕組みが必要と考えました。

CSRを「実践・定着」の段階へ

社内の仕組みづくりという面では、昨年策定したCSRアクションプランを引き継いでいます。可能な限り目標を定量化するといった点ではまだまだ試行錯誤の段階ですが、目標の見える化によって個人が具体的に何をすればよいかという行動レベルにまで明確に落とし込むことを狙っています。CSRというのを頭で考えるだけでなく、自然体でできるようになればいいですね。

社員一人ひとりが通信事業を通じて豊かな未来社会の創造に対して何ができるかを考えつづけ、貢献していける企業でありたいと思っています。

西日本電信電話株式会社
代表取締役社長

大竹 伸一